

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270400668		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム・栄田(1ユニットめ)		
所在地	長崎県諫早市栄田町42-58		
自己評価作成日	令和4年8月5日	外部評価結果確定日	令和4年10月31日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の中に立地しており、静かな環境の施設です。自治会に属することで、地域住民との繋がりや有事の際の連携を取りやすくしています。地元の消防団との避難訓練の実施や、近隣保育園との交流など地域に溶け込むよう活動をしています。敷地内には畑や枇杷の木があり、季節の野菜や果物の耕作を楽しみ、収穫を楽しみ、味覚を楽しめるよう力を入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyvosvoCd=4270400668-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyvosvoCd=4270400668-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年9月29日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム・栄田は住宅地の中にあり、道路向いの保育園児の声が響くなか、時々目を合わせて挨拶をしている。施設の裏には一面畑が広がっており入居者の憩いの場となっている。施設の優れている点としては、職員の人事考課について、個人目標管理シートが設けてあり、地域の方針、事業グループ方針、事業方針が示されており、次いで、事業計画目標、個人目標、自己アピール欄に各自が取組目標を記入し行動計画に繋げ、上司の評価の後、最終段階で自己採点と評価者の採点を行い、より介護支援のレベルアップを図っている点を評価する。次にサービス内容に関する相談・苦情に関しては別紙マニュアルが作成されており、法人全体として対応するようになっており、全職員が閲覧出来るようになっている。解決や改善策を明確にして、全職員が共有する仕組みが出来ている点を評価する。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	近隣の保育園や消防団、自治会など地域に深い関りがもてるように、積極的に取り組んでいます。	「住み慣れた住まいでその人らしい暮らしを継続してできるように支援します」を施設の理念としている。入居者の支援については、自宅での暮らしの継続として、施設前の畑で野菜の栽培を楽しむ方がいて、ちょっとした調理を楽しむ方もいて、材料手配や調理場の使用についても見守っており、穏やかな生活を送っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	栄田町の自治会に入る事で、地域の行事は当然ながら、地域の取り組みや動きを把握したうえで、積極的な交流をしています。	自治会の一員として、毎年地域清掃活動に参加している。以前は管理者が地域の班長となり、栄田地区住民に対して声掛けを行い、安否確認にもつながり、今でも交流は続いている。コロナが治まり、目の前の保育園との交流や、現在単独で行っている消防訓練について、消防署との合同訓練を再開したいと思っている。	施設からの情報発信としては、個別にライン等で報告しているものの、施設全体の情報が発信されていない状況なので、ご家族や地域に対して、より施設の状況の理解を得る事を目的として、入居者の生活状況を定期的に写真を交えて、施設だより等を発信することを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流の中で、お祭りに参加したり、地域ボランティアを招く事で、楽しい時間を共有しながら私たちの支援の在り方を見ていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自施設の運営推進会議に加え、他法人の会議への参加を行っています。相互により多くの意見をいただく事で、より良い反映ができるよう努力しています。	コロナ禍において、現在対面による運営推進会議は中止している。議事録作成については、提示する議題についての書面を関係者に送付して、意見を求め、返送された意見を基に、2カ月後の運営推進会議議事録に掲載している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のご担当との連絡はメールでのやり取りが主ですが、法的な解釈等で不明な点は積極的に連絡を行い、事業の正当化を図っています。	運営推進会議における意見については毎回議題に沿った意見をもらい、他にも施設運営上の解釈について、グループホームの職員配置の緩和についても指導を仰ぎ、施設運営に役立っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、まだまだ解釈不足な職員もいますが、管理者巡回を行う事で身体拘束廃止に努めています。	身体拘束について解釈不足の職員に対し、管理者が指導している。具体的な指導については、ベッド柵の不適切な使用についてわかりやすく説明し、指導している。他に年4回、身体拘束についての勉強会を続けており、職員全体の意識が向上している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、巡回を行う事に加えて、勉強会などで虐待防止の意識を高くもてるように促しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、成年後見人がいらっしゃる入居者も複数おられるので、ご担当からお話を聞いたり、自身で知識の拡充に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明責任を果たせるように場を設けています。後々、十分な理解が得られていなかった事もありますが、再度丁寧な説明を行い、信頼関係を築いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	少なくとも介護計画書の更新時には、ご意見を伺うように徹底しています。別途、ご家族とお話する機会を設けるようにしています。	介護計画書の更新時に、ご家族に対して要望や意見を頂く為アンケートも含めて文書にてお願いしている。入居者の中には畑に興味を持っている方もおり、施設前の畑を整備しイモ、キュウリ、ゴーヤ等を栽培し、昨年秋から収穫祭が行えるようになり、施設理念に沿う支援が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して、理解不足の職員もいる為、疑問・質問などは日常のコミュニケーションにより抽出できるようにしています。挙げた意見等は、上司へ共有するよう心がけています。	職員会議開催時は、職員一人ひとりの意見が出やすくするため、管理者がその都度職員に語りかけて意見を求めている。入居者の中には摂取する食事量が減る方もいて、職員の意見の中で食事の提供を一度に出すのではなく、一品ずつ提供したところ、食事を取る量が増えたケースが出てきたと報告が上がった。職員の有給取得に関しては、基本毎月1日を取得することを推奨し勤務環境の向上に勤めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ライフワークバランスが崩れないように、個々人に合わせた就業状況を実現できるよう、日々意見を集めています。離職率の低下にも繋がっていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアに対するスキルアップはもちろんですが、職員一人一人が望む研修を受けられるように、機会の確保に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外で1事業所、交流機会を作るようにしています。また、法人内ではありますが他のグループホームと情報交換をする事で、ケアの行き詰まりを解消する機会を設けていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報や、カンファレンスを行う事で安心して過ごして頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にご家族の話を伺い、要望などに沿えるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居がベストなのかどうかを、ご家族との協議、ご本人の状態の見極めをしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理方法や洗濯物干し等は、お手本にさせて頂く事が多いです。特に裁縫においては、職員ができない事をそつなくこなされるので、頼らせていただいています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の時間の都合を尋ねた上で、こちらから電話をさせていただいています。本人様の状況を理解して頂いた上で、お話をする機会を設けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と共に、美容室や外食、冠婚葬祭に出かけられる機会がありました。	コロナ禍においては馴染みの人と場との関係を繋げるのは厳しい状況にある。そんな中でも施設としてはコロナ感染対策に万全を期し発症者はいない。施設内において入居者同士で年賀状の交換をするなどして交流を深めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考えた上で、座席配置を配慮したり、関りが難しい方には職員が仲介をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全てのご家族・関係者とは行きませんが、相談がある際はフォローを惜しまず行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話からヒントを得る事ができるように、コミュニケーションを大切にしています。入居者本位の生活が実現できるように努力しています。	職員は、入居者との日々のコミュニケーションの中で一人ひとりの思いや意向を聴きだしている。施設内で、月1回職員全員の出勤日をつくり、ケアプランの相談と入居者の思いや意向の共有、また意見交換の場として各フロアで会議を開いている。職員は、施設内での日々安定した生活が送れるように支援に努め、目と耳が不自由な入居者には、頬にそっと手を添えるなどのスキンシップを大事にしている、	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	認知症ケア、そして看取りに至るまで在宅での生活歴は非常に重要であると思っています。新規入居の際に、得られる情報は最大限収集するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の余暇時間が充実するように支援しています。残存機能を活かせるような支援を心がけるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族へケアの方向性を説明し、ご本人・ご家族に意向に沿ったケアができるように配慮しています。</p>	<p>管理者は、入居前に入居者や家族等から情報収集した内容を介護計画システムのフェイスシートに落とし込み暫定介護計画を作成、1ヶ月後に本介護計画を作成している。介護計画は、職員でのフロア会議や個別会議において3ヶ月毎に中間評価をし、半年に一度は必ず改定を行い、家族にも同意を得ている。また、入居者の体調の変化によっては、その都度介護計画の変更を行っている。骨折で入院していた入居者が施設に戻ってきた時は、車椅子から自立して歩くことを目標に置き、日常生活動作のリハビリを行い、徐々に改善していった事例がある。ICT導入により、介護計画や日々の介護記録などが入力しやすくなり、職員間でも共有が出来る。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>職員間の情報交換はこまめに伝えていきます。介護計画書への反映ができるように努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族と、最近ではラインを活用し、日々の生活や何気ないコマを、写真・動画で共有しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所等より活用できる地域資源情報を得る機会もあります。地域ボランティア等が利用する機会が多いです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、入居前のかかりつけ医を継続しています。心身の状況変化に伴い、往診へ移行する際も、きちと説明を行い、納得した医療を受けて頂いています。	入居者数名は、入居前からのかかりつけ医に受診をしているが、他の入居者は、入居を機に往診ができる協力医療機関へ移行している。協力医療機関は、1ヶ月に1～2回訪問診療を行っている。受診は、基本家族にお願いしているが、車椅子使用の入居者には、施設の車両で職員が送迎をしている。施設は、看護協会の訪問看護ステーションと契約を結び、看護師によるバイタルチェックやドクターとの医療連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日ケアに携わる介護職でしか気づけない変化も多くあります。その少しの変化は必ず、看護職との共有を図るようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設として受け入れ可能な病状を病院側と共有しています。気持ちよく退院ができる環境を整えるように努力しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階より、ご家族や本人の意向は確認するようにしています。意向は常に変化していく為、きちんと話し合い、確認をしながら慎重に対応しています。	この2年ぐらいの間で、家族、施設、主治医とで看取り事前確認の同意を得て看取りを行った事例は3件あり、日常ケアを中心に支援を行った。看取り経験が少ない職員に対し、経験がある職員がアドバイスをするなど職員同士の連携は取れている。職員からは、看取りについての勉強会をしてほしいとの意見が多く、法人内での事例を用いての説明や、エンジェルケアについての詳しい勉強会を開いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命(AED使用)が実践できるように機会を設けています。また、色々な症状への対応を学べるように、都度配慮しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の火災避難訓練、年1回の防災訓練を最低限実施しています。地域の消防団との合同訓練も実施し、地域連携を図っています。	夜間を想定した火災避難訓練は、夜勤者2名のみで行った。事前にシミュレーションをし、入居者を居室から避難誘導を行う実践的な訓練となった。居室等の窓枠の内側が障子になっているため、徐々にカーテンへ取り替えている。居室の取り替えたカーテンには、防災ラベルがついていたことを確認した。	災害への備えとして、食料の備蓄が現時点でないとのことである為、事業所内で検討をし、食料備蓄を準備し管理することを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格に尊重し、言葉かけや対応に配慮しています	職員は、基本苗字にさんをつけて呼びかけているが、下の名前や旧姓など臨機応変に対応している。否定しない、ですますを使うなど言葉かけには十分配慮している。管理者は、職員の不適切なケアに気づいたら、注意喚起を促したり個別指導をしている。施設内の研修で、法人の副理事長の指導の下、接遇の勉強会が行われ、接遇マナーの向上を個人目標に挙げられる職員もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを聞きできる事は自己決定をしていた だき、出来ない時はどうしてなのか説明しながら支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースに合わせて支援する様にしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みを優先しその人らしい身だしなみができるように支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにしていただく様、ペースに合わせていますが、準備や片付けと一緒にできる機会が少ないです。調理レク等で機会を設けています	施設内では、朝食の味噌汁作りと3食ご飯を炊いて、おかずは配食サービスを利用している。職員がおかずを調理器で温め、陶器の食器に盛り付けをして出している。おかずが、一般食で配食されるため、ミキサーにかけたり刻んだりとろみを付けたりして、入居者一人ひとりの食事形態に合わせて対応している。入居者の食事準備等の役割が減っているため、月1回調理レク(おやつ作り)を実施している。入居者は、パフェの飾り付けをしたり、たこ焼き作りで生地をまぜて焼いたり出来ることとして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量や食事量を毎回記録しています。栄養士作成の献立に基づいており、不足分を補うよう支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	できる限り本人にさせていただいていますが、必要部分を見極め、介助や声かけをしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレの声かけのタイミングや排泄のパターンを把握するように努め、個人に合った支援形態を確保しています	職員は、入居者本人の意思または行動等で判断したり、朝一番の排泄の時間から一日の排泄パターンを予測したりして、声掛けをトイレに誘導をしている。日中、入居者はリハビリパンツ、またはリハビリパンツにパットを当てて生活し、トイレでの排泄を基本としている。転倒リスクがある入居者には、居室にポータブルトイレが置いてあり、夜間に使用している。排泄パターンは、パソコンやタブレット端末で一人ひとり管理されて職員でも共有が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や運動、トイレへのタイミングなどで自然排便を促しています。必要に応じて下剤の使用を行っています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声かけを行い希望に沿った入浴を心掛けていますが、午前中に実施する事が多く選択肢は少ないと思います	月8回入浴出来るよう支援をしている。入浴を拒否される方は、午前から午後、または翌日に変更して入居者のタイミングに合わせている。入居者の好みの湯加減調節や、肌の弱い方には専用の石鹸やシャンプーを使用して、個々の入浴支援を行っている。入浴が難しい方の為に、リフトを近々設置する予定である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきが悪い場合は、ホットミルクなど安眠できるような支援を模索しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎日の薬のセットを介護職員でもできるように、薬情書を所定の位置に保管しています。また、どの時間に何を飲んでいるのかも周知できてきていると思います		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯もの関連に加え、クラフト作業や畑作業など、好みの事をできるように支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出自体を実施できない状況です。外出解禁になった際に、行きたい場所などをリサーチしています。	コロナ禍の為、外出自体を自粛している。春には近所の公園に花見に出かけたが、コロナ感染拡大のため、施設の周りを散策しているだけに留まっている。入居者は、散策の際に敷地内のびわを採ったり、ひまわりなどの花を見たりして季節を感じている。入居者からは、外出が出来るようになったら買い物に行きたいとの希望が出ている	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を使用する機会が現状ほとんどありません。外出解禁になれば、お支払いなどをできる方には、それを踏まえた支援を行います。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡はいつでもできるように、ご家族と示し合わせています。手紙を希望されてる方や届いた手紙の返事を書きたい方もいますので、対応しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温やうるさい音に対して、敏感に反応される入居者が多いので、空調管理や騒音への配慮は特に意識しています	共用の空間の清掃は基本職員が行うが、たまに紙モップでの拭き掃除を入居者に手伝ってもらっている。温度・湿度・風向きの調節は、職員の体感に合わせるのではなく、入居者に合わせることを心掛けている。感染対策として、手洗いの消毒はもとより、窓を開け換気し手すりなどを1日数回消毒している。リビングの壁には、職員と入居者で作った季節を感じる飾り付けがしてあった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングが主な共用空間の為、読書や音楽を聴かれる方は居室で過ごされています。リビングでは、テレビを見ながら談笑されたりする空間になっているかと思います</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時に、そういった家具類などをご家族へ相談しています。タンスやいすなどを持ち込まれる方もいます</p>	<p>居室は和室と洋室があり、机とクローゼット収納が壁一面作りつけられている。居室は入居者にとって、就寝するための部屋でもあるが、編み物をしたり、CDを聞いたりするプライベート空間にもなっている。夜間でのエアコンの温度管理は、個別に対応し快適に眠ることができるように支援をしている。体調が悪く、居室にいることが不安な入居者は、静養室で職員が見守りを行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者それぞれの日常生活の同線を確保し、私たちが見守りと声かけで自立した行動がとれるように心がけています。手摺位置や福祉用具の見直しなどを、定期的に協議しています</p>		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4270400668		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム・栄田(2ユニットめ)		
所在地	長崎県諫早市栄田町42-58		
自己評価作成日	令和4年8月5日	外部評価結果確定日	令和4年10月31日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

住宅街の中に立地しており、静かな環境の施設です。自治会に属することで、地域住民との繋がりや有  
事の際の連携を取りやすくしています。地元の消防団との避難訓練の実施や、近隣保育園との交流な  
ど地域に溶け込むよう活動をしています。敷地内には畑や枇杷の木があり、季節の野菜や果物の耕作  
を楽しみ、収穫を楽しみ、味覚を楽しめるよう力を入れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvsvoCd=4270400668-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvsvoCd=4270400668-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和4年9月29日		

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	近隣の保育園や消防団、自治会など地域に深い関りがもてるように、積極的に取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	栄田町の自治会に入る事で、地域の行事は当然ながら、地域の取り組みや動きを把握したうえで、積極的な交流をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流の中で、お祭りに参加したり、地域ボランティアを招く事で、楽しい時間を共有しながら私たちの支援の在り方を見ていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自施設の運営推進会議に加え、他法人の会議への参加を行っています。相互により多くの意見をいただく事で、より良い反映ができるよう努力しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市のご担当との連絡はメールでのやり取りが主ですが、法的な解釈等で不明な点は積極的に連絡を行い、事業の正当化を図っています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、まだまだ解釈不足な職員もいますが、管理者巡回を行う事で身体拘束廃止に努めています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に、巡回を行う事に加えて、勉強会などで虐待防止の意識を高くもてるように促しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、成年後見人がいらっしゃる入居者も複数おられるので、ご担当からお話を聞いたり、自身で知識の拡充に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明責任を果たせるように場を設けています。後々、十分な理解が得られていなかった事もありますが、再度丁寧な説明を行い、信頼関係を築いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	少なくとも介護計画書の更新時には、ご意見を伺うように徹底しています。別途、ご家族とお話する機会を設けるようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関して、理解不足の職員もいる為、疑問・質問などは日常のコミュニケーションにより抽出できるようにしています。挙がった意見等は、上司へ共有するよう心がけています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ライフワークバランスが崩れないように、個々人に合わせた就業状況を実現できるよう、日々意見をまとめています。離職率の低下にも繋がっていると思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケアに対するスキルアップはもちろんですが、職員一人一人が望む研修を受けられるように、機会の確保に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外で1事業所、交流機会を作るようになっています。また、法人内ではありますが他のグループホームと情報交換をする事で、ケアの行き詰まりを解消する機会を設けています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の情報や、カンファレンスを行う事で安心して過ごして頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にご家族の話を伺い、要望などに沿えるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム入居がベストなのかどうかを、ご家族との協議、ご本人の状態の見極めをしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のできる事をしていただき、得意とされている事は職員が教えていただいたりはなしを聞いたりして活動しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の方にも日頃の様子や状態を報告する様にして共に支えていけるよう努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人やご家族の方に話を聞きながら馴染みの人や場所を把握するようにし、電話や手紙も活用しながら支援に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの様子を見て、座席を配置し、入居者同士が良好な関係を築けるように指定しています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	全てのご家族・関係者とは行きませんが、相談がある際はフォローを惜しまず行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人と話をして把握に努め、困難な場合はご家族の方に話を聞いたり様子を見ながら職員間でその方の意向が把握できるように努めています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞き取りをしたり、入居時の情報から日頃の暮らしの中で把握できるようにしています。難しい時はご家族の方に話を聞くこともあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の暮らしの様子は記録に残すようにし、全職員が把握して情報共有しながら支援しています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なカンファレンスや状態の変化があった時にカンファレンスを実施し、その時に必要な介護計画作成するように努めています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録ではケアカルテを活用し情報共有しカンファレンスを行う時など、記録を活用して介護計画見直しに活かせるようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に住むご家族に代わりに本人に必要な物の買い物をするなど、できる限りニーズに対応できるように努めています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市役所等より活用できる地域資源情報を得る機会もあります。地域ボランティア等が利用する機会が多いです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、入居前のかかりつけ医を継続しています。心身の状況変化に伴い、往診へ移行する際も、きちと説明を行い、納得した医療を受けて頂いています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日ケアに携わる介護職でしか気づけない変化も多くあります。その少しの変化は必ず、看護職との共有を図るようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設として受け入れ可能な病状を病院側と共有しています。気持ちよく退院ができる環境を整えるように努力しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階より、ご家族や本人の意向は確認するようにしています。意向は常に変化していく為、きちんと話し合い、確認をしながら慎重に対応しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命(AED使用)が実践できるように機会を設けています。また、色々な症状への対応を学べるように、都度配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回の火災避難訓練、年1回の防災訓練を最低限実施しています。地域の消防団との合同訓練も実施し、地域連携を図っています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に他の方についての情報が不必要に伝わらない様に、大きな声での職員同士での会話を控えています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えがある時は希望を聞き、共同生活の中で可能な限り支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者優先での支援をするため、希望に添えるよう耳を傾けています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には好みに合わせた洗濯をしていただけるよう声かけをしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りやおやつ作りをしています。普段あまり食べられない方でも沢山食べられます		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量記録しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人のADLに合わせた支援をしています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意がある方は、随時対応しています 訴えがない方については、パターンを把握し失禁がないようにトイレ誘導するよう努めています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動不足による便秘解消の為、体操を実施しています。便秘気味の方に対しては、下剤や座薬での排便を促しています。水分摂取量を向上する為、ゼリー等で摂取量の確保を補助しています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	受診や外出等で、入浴の機会が減らない様に話し合いをしています。 どうしても職員の時間の都合で進めてしまっていると思います		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的に休息時間は設けていますが、入居者がきつそうにされている時は、別途休息を取れるように、常に配慮しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	交替で定時薬の準備を行っています。容量や作用など介護職員も把握するようにしています。 薬の変更があった場合は、周知徹底しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操や歌、クロスワード等レクリエーションを行って、楽しみを作るようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出支援が思うようにできていません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出等の支援が出来ていないため、お金を扱う機会を設けられていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかける支援を行い、ご家族や知人とのやり取りができるようにしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空調調整やカーテン等での調光、時間を決めた換気を行っています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で過ごされる際の人間関係に留意し、個々が居心地が良くなる空間を目指しています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライベート空間である居室に、馴染みの家具などを配置しています。また、安全確保も踏まえベッド配置など調整しています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	塗り絵や計算問題など、レクリエーションに参加していただき、その中でできる活動を見出しています。		